

平成 22 年 12 月 6 日

各 位

会 社 名 株式会社東日本銀行  
代 表 者 名 取締役頭取 鏡味 徳房  
(コード番号 8536 東証第 1 部)  
問 合 せ 先 経営企画部長 本田 修  
(TEL . 03 - 3273 - 4073)

### 格付据置および見通し変更のお知らせ

当行は、このたび株式会社日本格付研究所(JCR)より、格付を据え置きとしたうえで、格付の見通しを「安定的」に変更する旨の通知を受けましたのでお知らせします。

#### 記

1. 格付機関 株式会社日本格付研究所(JCR)
2. 格付 A- (据置)
3. 格付の見通し 「安定的」(「ネガティブ」から変更)
4. 格付の種類 長期優先債務格付
5. 格付の理由

- (1)東京都中央区に本店を置く資金量約 1.6 兆円の第二地方銀行。09/3 期に貸出先の新興不動産の業績悪化を主因に与信費用が多額に及び、その後も不動産業界を取り巻く経営環境が厳しい状況にあることや貸出資産の内容などを踏まえて、格付の見通しを「ネガティブ」としていた。足元にかけて不良債権処理の進捗とともに貸出資産の質の改善が進展している状況等を踏まえ、見通しを「安定的」に変更した。
- (2)ローンポートフォリオは不動産業および不動産賃貸管理業の占める割合が 3 割と高く、その 8 割弱を比較的信用リスクが低い不動産賃貸管理業向けが占めており、それ以外の不動産業向けについては残高圧縮や小口分散を図っている。金融再生法開示債権比率は 10 年 9 月末で 4.53%(部分直接償却した場合 3.68%)と見劣りする水準ではあるが、10 年 3 月末対比で 0.96%ポイント低下しており、不動産業向けの回収専担者等を通じた不良債権処理が奏功した結果とみられる。
- (3)市場金利の低位推移を背景に貸出金利回りの低下などが収益の圧迫要因となるなか、基礎的な収益力は低下傾向にあるものの、コア業務純益ベースの ROA は 10/9 中間期 0.56%(年換算ベース)と比較的良好な水準を維持している。有価証券運用に比べ利回りが比較的高い貸出金での運用に比重を置いていることや相対的に厚い利ざやが確保可能な中小企業向け貸出比率の高さ等が収益力を支えているとみられる。
- (4)10 年 9 月末の連結 Tier 比率は 9.58%と、利益蓄積による内部留保積み上げを主因に前年同月比 0.28%ポイント上昇した。09/3 期に計上した当期純損失により毀損した Tier 資本の回復は徐々に進展しており、Tier 比率の水準も相対的に高い。Tier 資本のなかに返済を前提とした公的優先株 200 億円が含まれている点を勘案したとしても、一定の資本基盤を有するとみられる。

以上